

平將門退治圖會二



13
3296
2



5へ13
3296
2

平將門退治圖會壹 從延喜七年十月 至兼平六年 凡三十年也

大正十年八月廿九日
本大學出版部

第一 經基王の源氏の姓を賜ふ

附 源田満仲誕生

往古 帝王史官を 朝廷に置しより以降。言事成述て與廢を徴し。善惡を勸めしめて以て勸懲を備ふ。後君之小則て國政治む方の文経を嗣主と爲りて體を以て導くの大法と爲り。是則六国史の流也。明士秀才史鑑と録して教を伝萬世の爲あり。凡そ國家の治一亂を古籍小考あり。喻て海潮の干満小似する治極あり。亂は亂極するを免れ治まる。是も天地の定理あり。然る治まるを免れ文政以ての治め。亂る時の或は以て。急小法むその或は暴を

卷之二 一

禁り兵と戦り。大と保ち功と定め。氏と安んじ衆と和し。歌と豊中を
 是で武の七徳とひん。征戦の場小隊をひ。死と軽とく。瞿鑠の勇と振ひ
 名と美代小貽も。蓋武人の勲功あり。まき名將の然らざ。討策と惟魯の内
 小廻らして。勝軍千軍の外小謀る威あり。猛とく。下氏の情と察して
 ことよく懐と懐け。儉と守りて。驕奢と止め。賞と厚く。刑法と死べ
 税斂と薄う。く。氏強富し。樂むの衆と俱め。愁ふの衆と俱め。
 こと須真の名將とひん。歷代人主の所為。視る小暴と以て。國と取者
 功業とあり。遠き。如く。多き。喪ふ。多き。遠あり。徳と有仁成
 施し。く。人と服し。國を強得る。子孫永く。その徳と稟て。其徳と共。六代
 小清和天皇。惟仁と中奉ふ。人皇五十六代小當りせぬ。聖主。皇子
 数君在ける。中。小。弟。六の宮。貞純親王と中。あり。文武の道。好む。あり。

賢く。こと。世のひ。武功あり。存。く。人。その。威。小。感。服。して。其。小。武
 家の如く。あり。ひ。事。せ。たり。清子と経基王と称も。弟六の皇子の清子。小
 あり。世以て六孫王と称。なり。ける。その君。清父親王の勳と稟あり。性質聰明
 小在り。遠き良將の器備あり。寛仁大度。小。こと。世のひ。ける。然。小。清。あり
 文徳天皇の皇子。右大臣。能。有。公の。姫。君。あり。その。能。有。公。文武の道。小。賢。く。て
 殊。小。弓。馬の。藝。小。達。し。あり。清。婚。貞。純。親。王。續。ら。ぜ。清。相。傳。わり。あり。歷代
 清。父。君の。武。功。及。外。祖。父の。藝。と。兼。備。し。あり。勇。々。かり。ける。名。將。多。く。六。頭。ハ
 延喜七年十月五日。清。歳。十五。小。く。常。寧。殿。小。於。て。元。服。の。式。と。行。る。加
 冠。ハ。源。能。任。公。理。整。ハ。藤。原。朝。臣。定。方。あり。即。東。帶。花。や。小。梳。ひ。あり。て
 主。上。小。拜。謁。し。來。る。即。除。同。以。り。と。右。馬。小。任。ト。正。六。位。上。小。叙。せ。れ。始。て

源の姓を賜ふ 清和の清裔なるふりて。世に清和源氏といふ

謹で按る。經基王の始に源の姓を賜ふといふ。諸書に云ふこと

是の武家へ賜ふの始なり。是よりまた嵯峨天皇の弘仁五年五月

皇子 信弘常明の四人及び皇女四人へ始りて源の姓を

賜ふといふ。本朝通記国史畧 代備考等も云ふ。是の武家へ流

ての源を當に浦黨と云ふ。當時を源の姓を賜ふ始り

とのいふ。加傳年歴の異同あり。本文延喜七年と記しるる前

太平記の説は擧まり。本朝武家評林に按る。天慶二年十二月

源姓を賜ふ。西國の強賊地友と討て月小武功進し云と記

し。延喜七年十五歳あり。天德二年十一月

廿四日卒。云云。天德元年 天慶二年

年少。經基四十七歳より殊なる。武藏守に其田在城

あり。將門との合戦あり。その翌年源の姓を賜ふといふ。武家

評林の説は最不需あり。其事で録して後の熾者で後の

帝に月華門の旗を居りて。作せしむる。經基を以て日本の大

將軍。武士の棟梁と云ふ。白旗一流螺鈿の淨劔一口を賜ふの

職事。中辨雅氏。倫言のありて。執達せしむる。經基畏て願望

あり。謹で勅命を遣はせしむ。經基不肖の身なり。恚る勅命を蒙る。當

家の面目未だの視換。何変り。是れ如んや。然りと云ふ。其年齢い

り。争う。大任當り。再三辭し。もう。倫言汗の如し。

出て再び返る。雅氏達て。止事と云ふ。經基を願望

のりこと 清和の正統源氏一流の大組と仰ぎて代々武徳盛めて歴
 代連綿と朝家の清衛より。あふ武藏守攝朝臣有あ一人の女の容
 色端麗のこころも。絲竹の道ゆの疎うだ。此年十六歳小ありあて貞純
 親王と愛まをひて。経基と婚姻の儀と整へり。とける小鸞鸞の山契法
 々も。既小は懐妊のり。山平産のあふ。諸寺諸山の貴僧高僧小
 裸せ。新念のり。月満て。殊のやうある若君は。誕生あり。山祖父貞純親
 王と。名を。上下の山欽び斜るも。二夜三夜及び七夜の山契式等。遣る所
 あり。殊小在来の大小公武といえど。是と。賀し。多肥馬門。茶小充滿と。誠
 小勇と。あを。見。後小成人あり。多田満仲と。中せ。あとの若君の山事あり

第二 貞純親王白龍と化しあふ
 附 経基内裡小於て鹿と射あふ

先哲の言ふまゝ。死生命小あり。富貴天小あり。實あや生者必滅の哀と。

道々まふわらむ。无常迅速の理小漏らば。信り。目出と。山欽の中あり。小
 須へ。延喜十六年五月七日。中務卿貞純親王。さる。山。遠例あり。ざり。

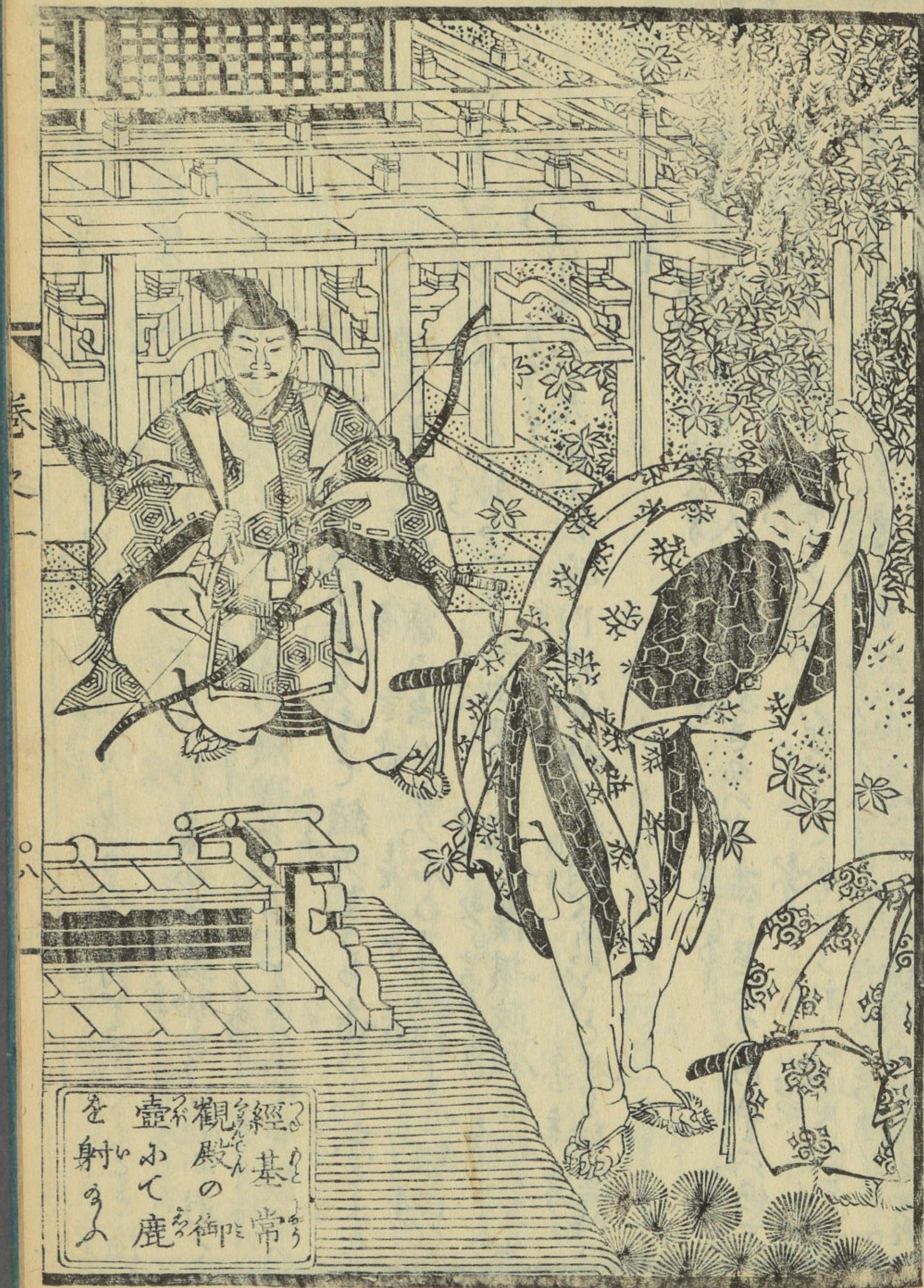
所寢殿の程あり。山息絶させあひなり。あふ。於て。山所中の男房女房。注
 多。歎し。むと。浪りあり。上下潮の湧ぐごとく。小立。澄々。あ。の。半。遠。道。と。あり。

諸人東西小奔走し。南北小馳。遠。山。油。小。さ。山。所。へ。紙。俵。す。方。大。名。小。名。教。で
 多。て。馬。車。門。外。小。充。満。す。鳴。呼。歎。き。り。あ。の。親。王。文。武。の。藝。と。兼。く。微。妙
 山。心。在。る。事。も。奪。魂。の。使。防。と。ま。き。方。術。あり。山。年。も。四。十。三。の。ま。で。壯。小。あり。

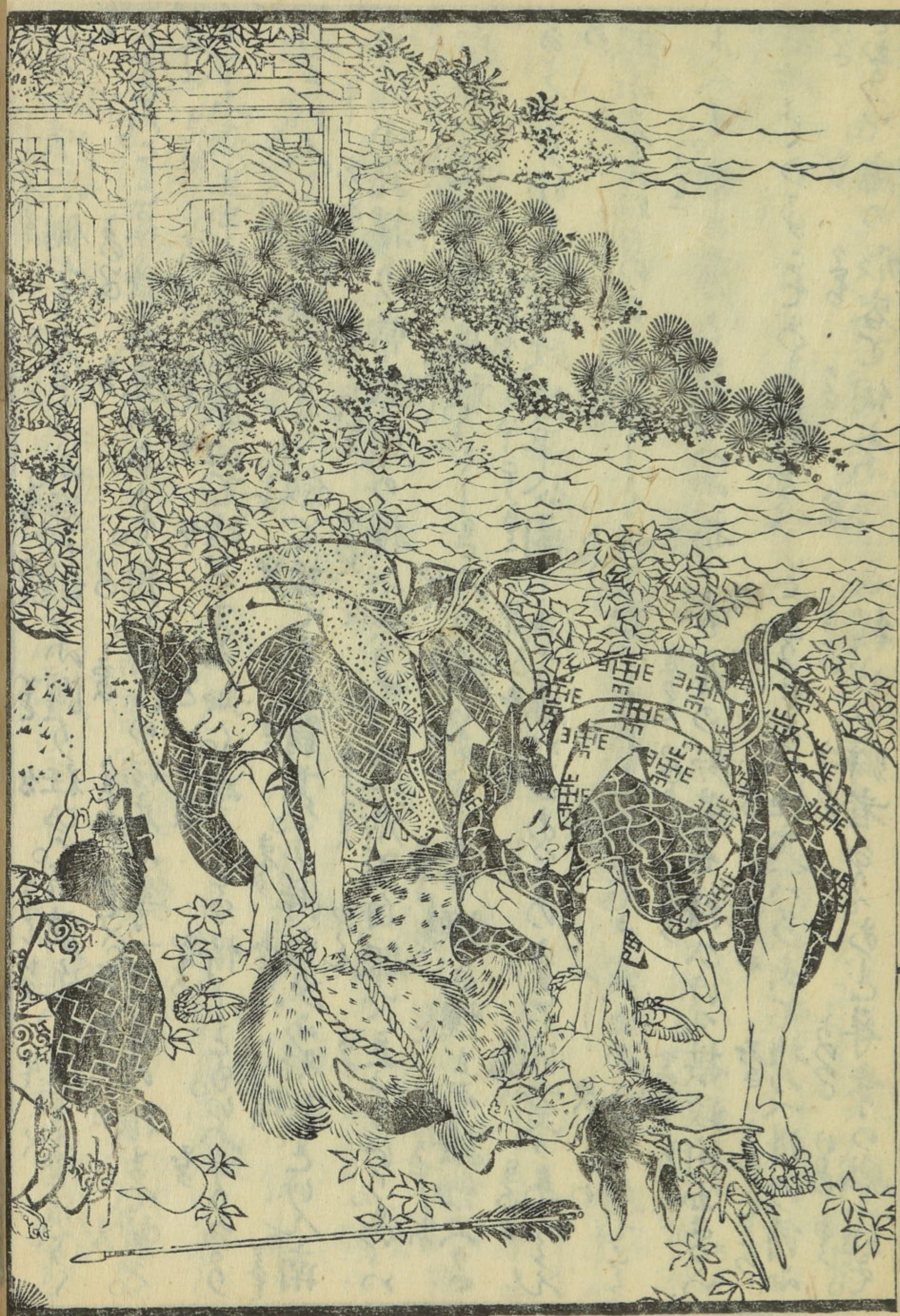
どの。斯。く。を。あ。へ。て。前。世。の。因。縁。と。ま。ま。り。さ。う。い。と。惜。さ。山。事。あり。か。つ。て。号。額。を
 形。の。如。く。尋。り。な。り。て。逆。薦。の。山。佛。事。り。こ。も。嚴。重。あり。あ。小。親。王。の。位。あ。ふ
 桃。園。の。宮。小。日。来。注。り。親。王。も。二。多。く。愛。あ。り。時。生。紀。の。氏。光。と。い。ふ。者。あり。

原の山隈ゆく。十月六日大嘗會をゆへにけり。とらん。あふまゝ一ツの不測也。
 主上朱雀いひまご山初雅ふささうせあへばあぐの山尉心多る中山貞觀殿の山
 臺山臺築山て築せ。あひの奇樹珍石を集め。四季折々の花紅系成栽。
 時ふさのく種々のあん戯まわり。頂への秋のまゝ樹の下系も紅系と
 綿さうまの心地をそとて主人の縁あられさう秋の風情も想像さう。秋上
 人上達初て除多を俱せう。その露で山麓下く奥せまをひ或を詩強
 吟ト秋て縁下く。益々逸興と添えさう折さう。遂向ふの山麓小一頭の
 鹿忽然と見まゝ。落葉を踏く。死狂ひ廻る景勢。かの猿九が縁さう
 けん。ゆ系をさうけゆ。麻の。好ましくせぞとつらね。かろ乳色ふ愛けるやと。
 主上と始りさう。人々奥ふ入ける。かの鹿へ彼方此方と地廻りゆ。道行ま。
 忽地ふ心づいた。門々の發園叢重あふふ奈らゆ。てららの麻の。山臺の。内へ紛ま

入けん。嗟不側やとるまふ鹿の頻り小躍り狂ひ。山前近く進まある。秋よく
 えん。と尋常の鹿あわぞ。角の深山の林木小等一口の身の根まを製く。
 上下ふ牙生出水晶の面小血てはささう。如く。凄トとも怖く。この山ありあり
 けま。人々大い強きま。て。劔て抜てま。翳せ。得白又あや思まけん。南
 の廂小飛揚り。常寧殿の棟小着り。皇居て白眼でま。さうりける。あひ
 后局の北めく。果敢と。人々も着ら。上下慄き惶ま。強動大く
 ありさうりける。後撰政忠平公園。て。麻の。是あ。の。ま。ま。の。方。へ。さ。さ。ん。
 眼小見えぬ。あ。か。く。怪しむ。とも。あ。然。ま。ま。武士小命ト射てま。
 せ。維。う。わ。る。と。あ。あ。折。し。も。源。の。経。基。ぞ。侍。ひ。ける。撰。政。仰。お。ま。る。の
 如。此。ま。の。ま。ま。射。さ。う。ま。ま。と。あ。り。け。ま。ま。ま。の。経。基。の。ま。ま。と。推。考。へ。件。の。新。ふ
 あり。麻の。形容を。伺ふ。あ。ま。ま。の。穉。代。の。癖。者。あり。あ。ま。尋。常。の。歎。小。悲。ぞ。



經基の常
 觀殿の御
 壺射鹿
 を射る人



卷之一

第三

平将門謀叛公連諫死

京都天變怪異

語ふ云く。夢ありて。禮ありて。亂るるや。と。相模天皇の曾孫前將軍良
 將の子小淵口小次郎相馬将門といふ者あり。その為人狼戾あり。然も力量拔
 羣あり。そのあざむき。智謀まこと頼あり。その人。能望と湛りて。朝家公頼あり
 まりんと。そのの萌あり。あて。帝位を奪うんと企けるこそ。漬猿けき。彼を
 強暴とて。人氏公知し。權威とて。下下屬。その任。下總四小都を
 達んと。諸君の。を。通り。な。て。恠て。同。同。破。格。と。り。都。の。山。湯。不。准。へ
 相馬群の津と。り。の。く。京。の。大。津。小。擬。し。う。そ。も。く。大。内。裡。と。や。ま。の。南。北
 と。六。町。東。西。二。十。町。め。く。四。方。小。土。の。門。と。建。り。東。の。方。の。陽。明。侍。賢。都。芳。門
 南。の。美。福。朱。雀。皇。嘉。門。西。の。談。天。藻。壁。殿。富。門。北。の。安。嘉。偉。壁。建。智。門。と。

あり。紫震清涼温明殿南殿の階下より右邊橋左邊の橋中興の鳥の旗
 左の日の旗青竜朱雀の旗右の月の旗玄衣白狐の旗再々暉とて。日映下
 月小輝く。七十二の前殿と十二の後宮。虹の梁雲小聳へ。同小巖。巖。天小翔。雲小
 目覺し。と。その。景。物。祭。の。河。房。官。兵。の。妖。獲。臺。も。と。と。の。過。り。と。て。見。え。し。
 かくて八座七轉文武のあ官諸國の受領諸寮諸府と。並。と。り。と。の。皆。曆
 博士と。關。り。と。と。せ。せ。の。り。の。傳。ふ。も。の。會。弁。津。厨。七。郎。將。頼。と。下。野。守。と。
 同大葦原四郎将平と上總夕岡鳥持と下總守。同将食の。守。常。盤。津。厨
 別當多治経明の常陸夕藤原玄龍の上總夕。或。藏。權。守。興。世。の。安。房。守。文。屋。の
 好兼の相模守と。納言。文。屋。と。と。と。と。小。仕。下。と。と。と。著。も。別。取。衣。冠。と。着。し。
 或。の。冠。鳥。帽。と。と。曲。り。裾。と。滴。ま。へ。の。覆。ふ。り。倒。ま。さ。翠。簾。小。冠。と。り。け。て。
 大童あり。ゆ。ゆ。り。その。容。り。と。く。見。苦。う。け。し。恠。而。將。門。の。渠。等。が。集。あ。り。

謀叛の軍議區々あり。所厨七郎將頼も軍の勢の衰ふを憂ふ。人の和と不和とあり。東八箇國へ所教書と成さし人の靡や。その容を察せし義兵と揚吏といふ。權守興世傍より。進み頭張ら振り。その理あり。他よりといふ。迂遠計策あり。今速に義兵を奉て。近國を討罪すべし。一國を擽る。八列を不遠奪ふ。その罪の齊一あり。まじく志の大あり。て欲も。まじく常陸を切腹。武藏相模と界とあり。安房上總の振を。一服せん。と掌と返さ。如し。と掌の内。物を把ぐ。事あり。あげ。あひひ。将門。とて。笑とあり。謀討を吾心あり。叶ふ。日。八列を握ら。その威勢あり。今上帝と遠徳。吾帝位を踏ん。王の仔細あり。軍議一決あり。折る。遠未。座。小。振。將門。從。中。史。六。郎。公。連。といふ。あり。あり。禪定。と。圓。と。齊。一。派。と。あり。と。あり。

抑怪異。企。と。什麼。天魔。の。所。あり。世。未。あり。と。日。月。池。小。陸。あり。君。の。既。小。桓。帝。の。あり。高。あり。人。の。列。あり。史。下。あり。と。上。と。侵。も。その。事。逃。あり。就。中。常。賊。と。あり。大。内。裡。の。容。小。比。あり。遠。連。あり。僧。上。の。あり。人心。目。と。駭。を。況。や。帝。都。を。傾。て。自。位。小。即。ん。と。四。重。五。逆。の。懸。中。の。あり。史。四。重。と。殺。生。偷。盜。邪。淫。妄。殺。と。言。を。あり。立。逆。の。別。父。母。と。殺。し。阿。羅。漢。と。殺。し。和。合。傍。を。破。り。佛。の。血。を。あり。と。佛。觀。あり。云。あり。ある。罪。科。と。侵。し。も。驕。奢。と。究。り。衆。を。成。極。あり。に。あり。の。更。人。倫。の。折。あり。天。の。責。と。稟。ん。の。愛。と。指。ぐ。如。し。有。來。今。世。の。事。蹟。と。思。ふ。漢。の。王。莽。唐。の。祿。山。我。朝。あり。の。獲。の。馬。子。或。は。惠。美。の。押。勝。等。逆。意。と。震。ひ。あり。と。皆。その。素。懷。と。逆。あり。今。威。勢。分。境。外。小。震。ひ。郎。從。國。中。小。克。滿。て。の。不足。あり。あり。と。箇。様。あり。

おのひまの人の自滅して招くの前象ありんと彈丸ありく。練りけしむ。道理の服
あま一座の人の。各口で喋る。寂寥とて言詰りのあり。この時將門も大の
怒りに怜れも置るのあり。吾道程まで思ひまを。はぐにあら感てとて争う
心で結さんや。殷の湯王周の武王漢の高祖と嫁らる。廢國の王さるのの不
道とて伐く天下で清め。基業と因くの先従なり。吾も桓武の苗裔とて争う
帝位小昇らざるん無益の言と動して衆人の機と失ふ。首と刎んと眼と中
ら。満面小赤とほき。礫と眼んで中なる。満空とてふいやく。怖まを。き一書も
ののあり。當下公連序と進み再び輝と書とふらふ。頭と刎るとんとの凶徒
も。義者の望むは多し。そもく湯王武王との小傑討つ器と悟。思へ四海の
國窮て救はん為の義兵あり。敢て一己の榮利ふらざる。孟子とて説て曰
一吏の封と誅する所聽。のまど若と殺する所聞也。とまど。氏の得するのみ。水の

下き小能ぐと。今世間泰平あり。四海の者の恩澤不絶。万歳と称ふ。打
らる。私欲を道の軍を起し。干戈と邦内を動さん。禍忽地足下を起し。く
命とて之軍の下小滅し。汚名と千載の后小遺さん。わら清徳のせん企龍達比干
の練て死も。某何ぞ二子小劣らん。各也免也。このありもわら。せむ肌お。其け。太刀
引抜ん。なむもくも左の脇腹へ突き。右へまると。引廻とてまふ。いやく。興さる。く
其日の群議へ止おけり。かくて迎奉らち續き世間穩。く。中。今。泰平
四年五月廿七日。旋風移。く吹お。沙とて卷て天と覆ひ。黒雲教。く。白日も。
忽地暗疾の如くふら。く。唯。小。わら。びと。海。中。外。の。貴。賤。上。下。及。て。失
ひく。泣。叫。ぶ。あの。風。猶。小。吹。勢。り。神。社。佛。閣。民。屋。築。地。も。或。ひ。吹。倒。し。或。ひ。埋
ま。破。損。せ。び。と。い。ふ。あり。山。崩。と。水。涌。て。今。や。天。地。も。覆。り。んと。周。章。狼。狽。大
く。加。之。坤。の。方。より。く。大地。怪。く。動。き。也。良。と。き。く。震。ひ。く。の。

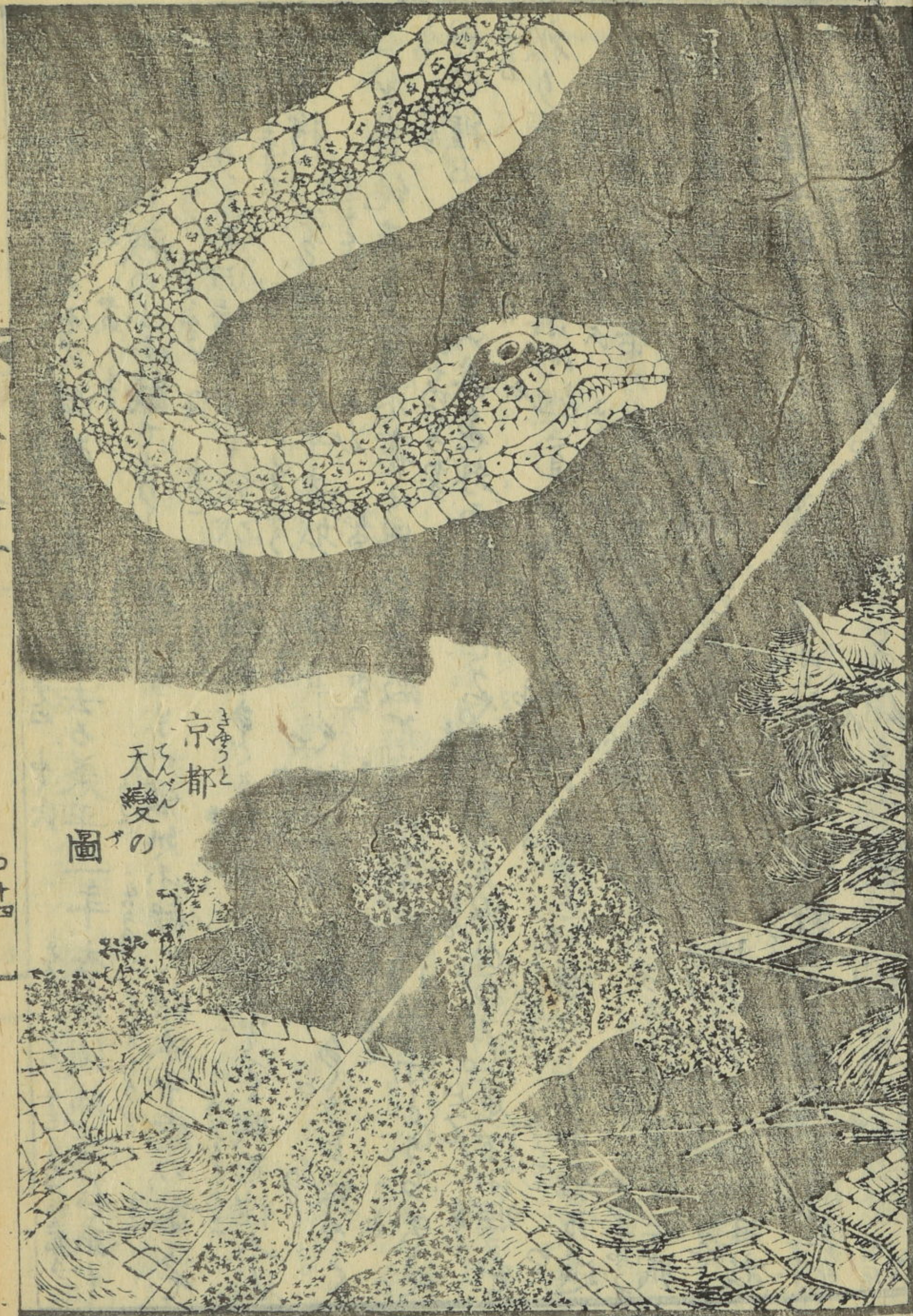
數回小及び一々若も逃る方やわんごをりおまへ。醉方如く。巨の踏所も
定まらぬ。其筋小倒して。泣叫ぶ既ふその日。暮方ふありて。少くも。つら
人々不測の命と。助るる心地。聊安堵の思ひ。成せしふその疾成
の刻も。覺し。まは。大池鳴動して。震ひ動く。百倍。天の雲
海せ。一。咫尺の間。も。忽地良の方ありて。長さ。十丈りや
あ。んと。思ふ。蛟のごと。の。二ツ頭。の。雲中。小。翻。く。は。炎と吐ぬ
光り。天地。輝。秋。毫の末。も。得。く。暗。疾。却。白。益。の。如。其。音。を
ま。形。と。見。る。の。魂。と。消。し。膽。と。冷。し。昏。絶。し。て。倒。し。伏。も。稍。時。斗。り。を
過。て。雷。の。ご。と。く。鳴。ひ。ま。東。西。へ。飛。去。けり。活。有。天。變。の。ま。ま。圓。で。あ。は。唯。幸。ふ
わ。ら。る。と。て。陰。陽。頭。加。茂。の。保。憲。と。て。助。へ。中。ま。ま。り。仰。下。さ。る。保。憲
畏。れ。く。天。變。地。妖。の。事。の。と。り。こ。中。せ。ご。の。今。夜。の。地。震。と。文。の。と。を。知

山嶺。く。朝。敵。四。夷。の。起。り。兵。革。奉。て。進。て。止。時。多。く。と。助。へ。と。い
諸。社。小。竹。せ。様。の。出。祈。も。急。ら。も。修。め。せ。を。あ。ひ。け。を

第四 将門純友契約

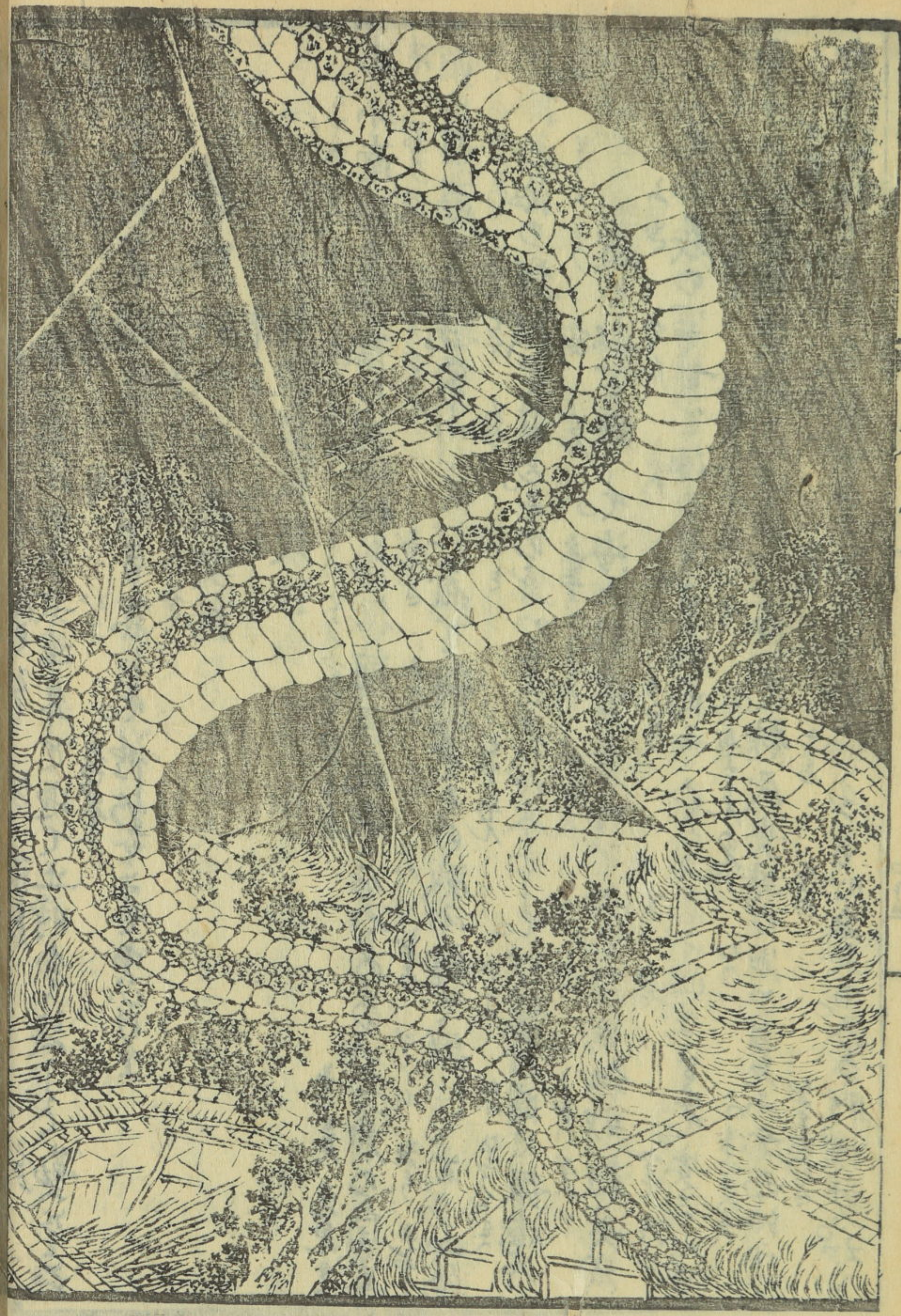
附 純友勢強聚む

あ。小。南。海。道。伊。豫。の。國。小。伊。豫。椽。藤。原。純。友。と。の。り。あ。り。あ。る。房。前。の。富。真
権。の。苗。裔。と。り。驍。勇。あ。り。仁。義。と。辨。へ。ご。威。小。赫。て。賊。心。と。下。山。陽
南。海。西。海。の。群。賊。と。集。り。そ。の。牙。の。と。と。強。本。と。て。伊。豫。の。國。日。振。傷。乃
沖。小。千。余。艘。の。船。と。懸。ト。て。海。上。往。來。の。貨。物。と。掠。り。或。は。私。財。難。具。成
奪。ひ。て。不。義。の。富。貴。と。極。り。ける。ま。ま。國。中。あ。ら。る。者。小。心。ま。ま。を。安。し。心。も
あ。り。り。の。津。國。少。將。門。運。威。と。震。ひ。て。諸。民。安。堵。の。思。ひ。あ。る。小。亦。西。海。中
が。る。運。徒。の。發。る。こ。奈。何。あ。る。故。や。ん。と。心。あ。る。由。心。あ。る。由。み。多。戦。慄。け。り。が。く



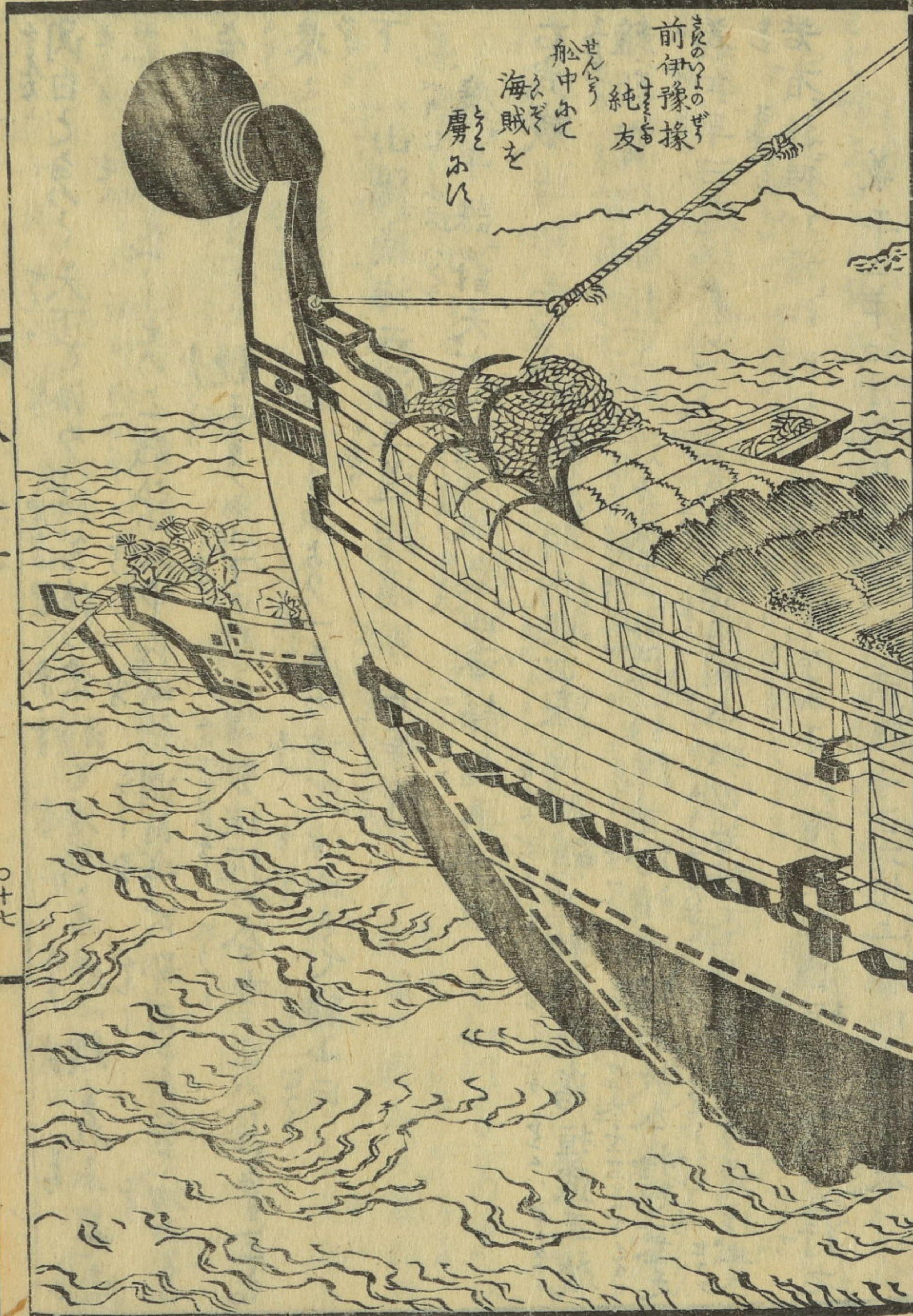
京都
天變
の
圖

〇十四



一四小動乱なるその縁故て身ゆき去る美平二年春の頃純友在京一
 たり比叡の山小幡でより小將門ゆき波知小幡て根本中堂の前
 乃違ふ互小旧情と述べて歎び命彼翁をどうち披きそを興と佳ふ
 けり將門の思ひけん平安城と看下りし猶雲時を離れゆく縁め
 在けり純友と不審小思ひその故と問けり將門莞示とち笑え
 思ひ裡小ありそ其色外小彰るごとく某のさう思ひありて足下小怪
 被りより緯率亦小似しき足下竹馬の友あり某少も不存成遺
 抑吾の桓武帝の皇子萬源親王小立代の孫ありあつ小是る平安城
 即桓武の草創めり四神相應の天地と語り是より以来帝家細の建枝
 の悉く位と跋と帝と称せられ小帝祖萬原親王の獨治と演めを
 然且その遺憾止時と稱小帝の縁とて彼の宣旨とて評とせ

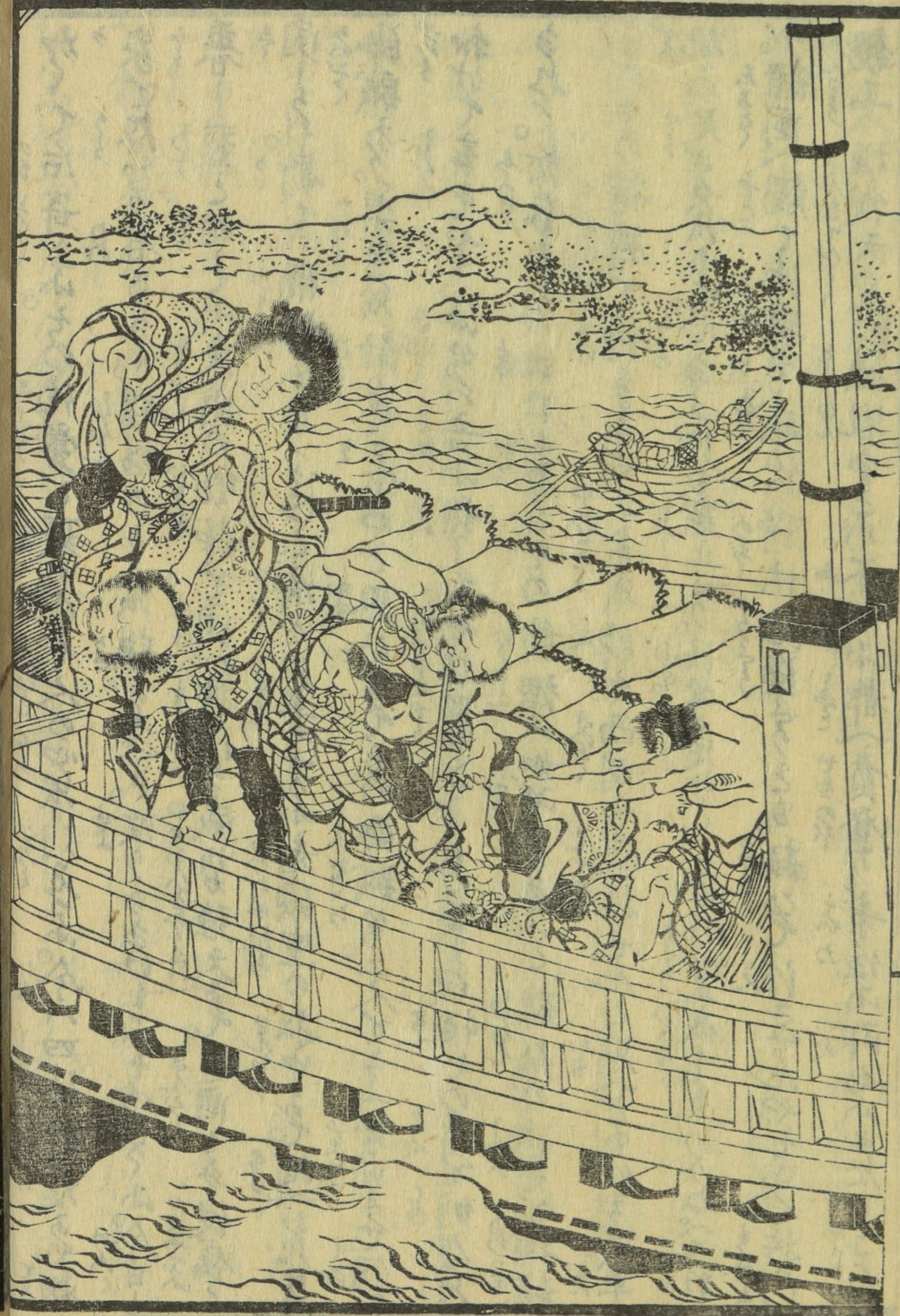
僅僕とあつて朽果んとて悲めり情りを合て去とければ純友忽地心
 得て小膝と進り四色と見廻し仰す如道理あり倘も大義の討果成
 思ひとあり某の臂の膂力を佐補犬馬の勞と竭せんと辰支高成て
 云は且將門滿面小笑と合て倘その言葉小帰らば大望成就歎ひゆ
 吾東國小義兵と揚て関八州とち靡け東海山陸と流へん足下南海
 小旗と揚て山陸山陽と切從へ直小都へ登らるる帝王の位小即足下
 則関白とあり万機の政と執せんと勇り純友の國志不敵の白痴
 あり一旗ゆも及む小領掌し更より東西へ別とてその使宣と伺ひて東
 西一回小峰起て世の動乱と論けりあり斯て純友の本國ある伊豫の國へ
 飯らんそ尼が崎より燈と解望目の暮方小掃磨の室小着けり夜小入
 て熾小風換り白浪天小漲り黒雲一天と覆ひ雨の篠と流れて突小水と



前伊豫掾
純友
船中にて
海賊を
虜ふ

巻之二

〇十七



巻之二

関白とありて天下を治めん。汝等後の榮耀を思ふ。その君小頼まれよらむ吾
幕下不属をく。その上戦ひ功ありて或は國司或は郡司をくを功あり
をた多し。あまを親王より下され。軍勢催促の令旨より人の多き。そ
茶くく。把物する箱のちり。一通の書と縁固まへ續小曰

下 山陽南海西海三道諸國軍兵等所

應早誅討天下之讐敵致四海靜謐事

右武藏推守正六位上藤原朝臣興世奉將門親王勅稱我為桓武正統
雖期寶祚猶依聖運遲々未至即位替煙薰心憤火燒肝故今將起一筆之
義兵早三道諸國之内世武勇之輩同令與力若於不同心者速可致伐責
若有拔殊功者御即位之後必隨元運加不次賞也諸國宜兼知依宣行之

兼平二年四月九日 武藏守正六位上藤原朝臣奉

そで續上とありて。殘思无頼の賊徒ども。大不飲んて形を改め。その目出されおん企
吾々が一命と。依けあつるのまら。功ありて。新領まで。宛行んと。仰する。赤尾
小頼。たる。懐倖あり。音く。い。去。ゆる。延喜年中。小伊勢の。國。鈴。麻。山。あり。菅。原。の。為。小
討。し。伊。賀。壽。丸。こ。中。を。め。孫。あり。て。祖。父。討。と。後。掃。磨。小。佐。山。陽。山。陰
あ。道。の。の。女。の。を。く。見。弟。が。下。風。不。ま。い。り。の。掃。集。あ。り。時。の。間。小。五。六。千。の
集。會。ぐ。あ。ま。の。数。年。海。小。訓。津。浦。の。案。内。あり。わ。り。の。の。西。て。い。
ま。の。當。國。熊。山。出。澤。太。郎。今。張。六。郎。讚。波。の。國。の。新。宮。の。繼。孫。又。高。松。の
鬼。九。弟。同。弟。熊。尾。の。新。六。阿。波。出。池。田。仲。村。の。一。黨。土。佐。小。別。府。淡。路。小
由。良。紀。伊。の。國。の。田。邊。が。一。族。掃。磨。の。國。の。法。華。山。の。繁。盛。太。郎。備。前。小
射。城。原。今。本。油。中。の。松。山。の。荒。木。弟。備。後。の。國。の。尾。道。六。郎。安。藝。の。國。の
の。金。剛。十。郎。蓬。屋。四。郎。周。防。小。國。屋。の。梶。五。郎。長。門。の。國。の。萩。の。葛。六。國。金

